

PHP新書「地震予報」読者の皆様へ No.1778長期継続大型地震推定前兆 原稿校了後の前兆変化についての続報

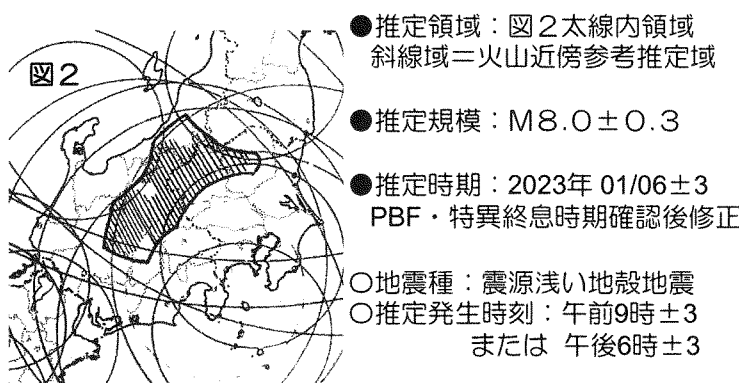
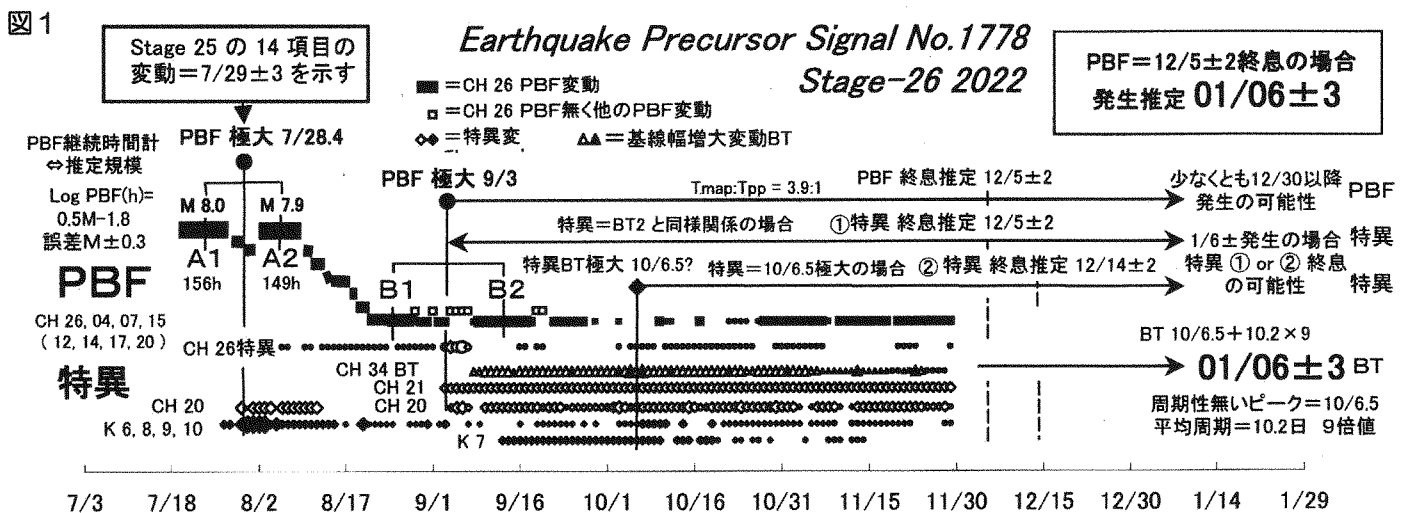
続報 No.345

2022.11/29 (火曜) 13:00 発表

八ヶ岳南麓天文台 串田 〒409-1502 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 電話 0551-38-3987 FAX 0551-38-4254

※PHP新書「地震予報」にNo.1778前兆について記したため続報公開。No.1778前兆は27年の観測歴史上最長継続の最大に難解な変動。しかし首都圏直下・南海トラフ等大型地震は前兆検知から発生までは数日の可能性が高い。火山噴火も検知可能。これらのNo.1778前兆以外の他の地震前兆については本HPでは公開できません。E-mailまたはFAXで配信の観測情報でのみ公開しています。本観測をご支援下さる方に前兆変動の有無や発生推定内容等の観測情報を配信しています。観測情報配信の「公開実験」に是非ご参加下さい。

1778 続報 特異変動 11/29 継続のため → 12/15±3 発生の可能性は否定 BT 周期的変化 経験則からは → 01/06±3 発生の可能性を示す



- 推定領域：図2太線内領域
斜線域＝火山近傍参考推定域
- 推定規模：M8.0±0.3
- 推定時期：2023年 01/06±3
PBF・特異終息時期確認後修正
- 地震種：震源浅い地殻地震
- 推定発生時刻：午前9時±3
または 午後6時±3

前情報で12/15±3発生の場合は特異変動が11/28±3終息する可能性を報告致しました。しかし11/29現在、特異変動は継続出現中です。従いまして12/15±3 発生の可能性は否定されることとなります。

継続中の前兆変動で完全終息が認められない現状、極大～終息の関係からは発生時期推定は計算できません。唯一発生時期が示唆される変動としましては、八ヶ岳のCH34基線幅増大BTの周期的変化です。現在までの観測で、BTの周期的ピークの平均周期は10.2日。周期性のないピークは10/6.5 認識です。周期性のないピーク日にBTの周期的ピーク平均周期の6倍値または9倍値を加算すると発生時期を示す経験則からは、9倍値を使用して2023年01月06日±3日発生の可能性が計算されます。

PBFに関しましては、短時間の終息変化は終息ではなかったことが明らかで、現在も継続出現中である認識です。7/28.4極大のあとに9/3極大があるため、PBF前兆変動が重なり、7/28.4極大に対する終息は確認できないと考えます。仮にBT周期性が示す1/6±3（誤差を考慮し1/7±3の可能性も有）発生となる場合は12/5±2にPBFが終息する可能性が計算されます。1/6±3発生の場合は特異変動は10/6.5特異極大認識が正しい場合は12/14±2終息の可能性。または特異変動が9/3 PBF極大から出現しているため、PBFと同じ12/5±2終息の可能性の、どちらかの可能性が考えられます。現状唯一の発生時期推定根拠のBTから示唆される1/6±3発生を考え、まずは12/5±2（1/7±3発生の場合は12/6±2）にPBFが終息するか確認します。終息しない場合は現推定が誤りであることとなりますので、さらに再考予定。少なくとも現状12/29以前に対応地震が発生する可能性は否定できます。

※推定内容根拠はNo337を参照下さい